

安全・安心を子ども達へ！

「放射能汚染から家族を守るために」

政府は国民に原発事故の真実を速やかに公表せず、避難民を半ば放置し、放射能汚染についても楽観視させようとしているのではないのでしょうか。チェルノブイリの原発事故からすでに28年が経過しましたが、現地では未だに環境や食品の放射能汚染が続いています。福島原発事故による放射能汚染の真実はどうか、そして放射能から家族を守るにはどうしたらよいか、一緒に考えたいと思います。



女川原発は危機一髪で事故を免れました。事故が起こっていたら、我々宮城県民は、福島県民と同様に、移住するか、放射能被曝を我慢して住み続けるしかありません。

開催日：平成26年6月15日（日曜日）

場所：仙台市市民活動サポートセンター 地下シアターホール

参加費・資料代：500円（被災者無料）

（受付：PM10:00～）

午前の部：AM10:30～12:00

映像による学習会

午後の部：PM13:15～15:30

映像と対談（3組）

主催：「放射能被害を考える
市民の会・みやぎ」

（原発メーカー訴訟の会百万人署名の
呼びかけも行っています。）

問い合わせ先：022-235-8876（加藤）

